

日本大学国際関係学部 校友会会報

第56号

令和7年11月15日発行



「箱根駅伝パブリックビューイング」



横山 雅人

国際関係学部校友会会長

国際関係学部校友会の皆様におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は国際関係学部校友会の活動にご理解とご協力を賜り心より御礼申し上げます。

今回は、国際関係学部校友会の年間行事計画にある二〇二四年から再開した箱根駅伝パブリックビューイングについてご紹介をさせていただきます。箱根駅伝の俗称で知られる東京箱根間往復大学駅伝競走は本年第一〇一回を数えました。本学の出場回数は九十二回、優勝回数十二回、中央大学、早稲田大学に次いで多く総合優勝をしています。学部校友会は一月三日の復路スタートを芦ノ湖で応援したあと、以前は三島商工会議所

一階のテレビモニターの前でゴールまで応援していましたが、テレビ観戦のみしばらく休止していました。三島市本町にある佐藤塾とのご縁をいただき、昨年から「箱根駅伝パブリックビューイング」として復活しました。佐藤塾に大型スクリーンを設置し、どなたでも自由に観戦・応援できるようにしています。（お振舞のお神酒や格安



提供の飲み物もあり）一月三日は地元三嶋大社へ初詣に出かける方や芦ノ湖で応援した方が寄ってくれたりと応援も盛り上がります。昨年は日本大学の幟のみ、多く立てすぎて入りにく

いとのご指摘をいただき、本年は「青山学院大学」「中央大学」「順天堂大学」の幟をお借りして本学と合わせ四大学の幟を立てたところ、昨年以上の来場がありました。遠くから興味深げに見ている方、幟の前で記念撮影する方も見受けられました。このイベントを通して母校日本大学への愛校心が強くなり、校友の絆がより深くなることを願っております。

三島市は、にぎわい創出に関わる部署を統括する「まちなか賑わいづくり推進室」を新設して、中心市街地の活性化をはかる取り組みをしています。この「箱根駅伝パブリックビューイング」が三島のお正月の風物詩になり、まちなかの活性化に繋がるよう頑張っていきたいと思っています。

今後ですが、よりイベントを盛り上げるために出場校の幟を増やしていきたいと考えています。出場校二十校の幟が揃ったら最高ですね。お知り合い等、幟をお借りできる方がいましたらぜひご紹介ください。よろしくお願いいたします。

このイベントには一点問題があります。日本大学が本選に出場できなかった時です。日本大学が出場しないのに学部校友会がイベントを仕切るのは難しいと思われます。今後は出場大学が幟の提供だけでなく、スタッフも派遣して協働できるようになっていっただら幸いです。



校友のみなさま、ぜひ一月三日は佐藤塾で母校の応援をしましょう！
そして日本大学駅伝チームの活躍を願っております。
結びに皆様方のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

「ご挨拶」



国際関係学部学部長

渡邊 武一郎

教養学科の学生とあわせて、即戦力・編入希望の学生養成に努めています。

かねてから建設中の図書館と管理棟の複合施設は九月に完成

し、令和八年度からの使用に向けて図書の見直しが始まりました。ガラス張りの外観による

明るい館内にはブックツリーを備え、利用者が静かに勉強できるスペースに加えてPBLやグループワークに最適なラウンジ

も設置され、三島キャンパスの新たなアイコンになることと思っています。

国際関係学部では学生の国際交流の推進を積極的にサポート

していますが、昨今の国際社会や経済の状況を踏まえて新たに

フイリピン・パナイ島のSt. Augustine Universityとの協定締結に取り

組んでいます。学生の皆さんの海外留学の選択肢を増やすことが

できそうです。

また、就職の面では静岡県内の複数の銀行、信用金庫等と協

定を締結しました。今後も国際

関係学部・短期大学部（三島校舎）の学生が卒業後に活躍できる

場を開拓していきたいと思っています。

これからの国際関係学部・短期大学部（三島校舎）では学生の

皆さんの修学意欲、好奇心に

より一層応えるべく、教職員が

一丸となりサポートする事を約束します。国際関係学部校友会

の皆様におかれましては、頼もしい後輩排出の為のご助力を賜

りますれば幸いです。今後とも宜しくお願い申し上げます。

「ご挨拶」



国際関係学部事務局長職務代行

篠原 健司

日本大学国際関係学部校友会

の皆様には、日頃より校友会活動にご理解、ご協力を賜り心よ

り感謝申し上げます。

今年の夏は、「酷暑」という

言葉が相応しい夏となりました。

静岡県では、八月六日に静岡市

で観測された四十一・四℃が県内の観測史上最も高い気温とな

りました。また、この「酷暑」

は気圧の変化をもたらし、ゲリラ豪雨など災害規模の悪天候も

多く発生しました。

このような中、在学生は目覚

ましい活躍を見せてくれました。

スポーツ強化推進部である硬式

野球部は、全日本大学野球選手権大会に七年ぶり五回目の出場

希望の森から虫の声が聞こえ

る季節はあつという間に過ぎ、

キャンパスから見上げる富士山

はうつすらと雪化粧を始めまし

た。国際関係学部校友会の皆様

におかれましてはご健勝のこと

とお慶び申し上げます。平素よ

り日本大学国際関係学部、短期

大学部（三島校舎）の研究・教

育活動にご支援、ご助力を賜り

まして、誠に有難うございます。

新たに、会計学の水谷公彦先生、

国際開発・協力の藤城一雄先生

と小早川徹先生、国際法の稲角

光恵先生、国際観光開発の築田

香織先生をお迎えしました。こ

れまで以上に国際関係学部の学

びの特色を強め、学生の皆さん

のキャリア形成をサポートでき

る体制を整えています。国際総

合政策学科と国際教養学科で選

択できる六つのコースでの学び

は、学生の皆さんの知的好奇心

を刺激し、探究心に応えます。

学生の皆さん一人ひとりの夢の

実現に向けて充実した時間を過

して欲しいと思います。

短期大学部（三島校舎）では

食物栄養学科の実験実習施設を

十一号館に移設し、学生の安全・

安心を確保しました。ビジネス

○六人が学んでいます。

国際関係学部では今年度から

を果たしました。同じく、女子硬式野球部は、全日本大学女子硬式野球選手権（高知）大会に出場しベスト四になっております。また、コロナ禍の影響もあり停止していた国際関係学部の特徴でもある海外交流が再開し、学生たちが様々な国際交流プログラムに挑戦しております。

さて、私は文理学部出身ではありますが、昭和六十三年に職員として入職以来、この三島キャンパスに勤務しております。これまで、庶務課、教務課、会計課、図書館事務課、高校事務課等を経て、令和六年十二月一日から、事務局次長兼事務局長職務代行を拝命しております。三島キャンパスでの勤続年数は三十八年となり、その間、大学では一号館、四号館、八号館等の建物が解体され、代わりに、十五号館、三島駅北口校舎が新設される光景を見てまいりました。解体された建物には様々な思い出もあり、昔の写真を見る

と懐かしい思いが溢れます。こうしたキャンパスの整備計画は、

学生・生徒・教職員の安心・安全を第一の目的とし、耐震化工事が進められ、現在は図書館兼本館の建替え工事が進行しています。令和七年十二月には新しい本館の運用が、また、令和八年四月からは新しい図書館の学生利用が開始される予定です。

新しい図書館は、建物の正面が壁面ガラスで、新しいシンボルとなる「ブックツリー」が学生を迎え入れる外観となっております。一階は「アクティブゾーン」として、グループワークエリア、ブラウジングエリア、休憩室等が配置され、二階は「クワイエットゾーン」として、静と動の中間的なエリアと位置づけ、貴重書庫、国際機関資料室も併設しています。三階は「サイレントゾーン」として、キャレデスクを配置し、個人学習を主体とした静かなエリアとなっております。校友会の皆様

にも是非、お越しいただきたいと思っております。

また、新しい本館には、学生がワンストップで対応できることを目的とした事務棟の機能が中心となっており、一階には教務課、学生課、就職指導課、保健室、二階には庶務課、会計課、管財課、研究事務課を配置しております。図書館からの行き来もでき、利便性も良くなることでしょう。

このようにキャンパス整備を進めておりますが、少子高齢化の影響は大きく、三島キャンパ

スにおいても入学定員の充足が厳しい状況となっております。

オープンキャンパスや高校訪問等を積極的に行い、令和七年度は入学定員を充足いたしました。が、今後も厳しい状況が続くことが予想されます。校友会の皆様におかれましては、今後とも一層のご理解とお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

末筆になりましたが、国際関係学部校友会の益々のご発展と校友の皆様のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

「災害に対する危機意識をもつ」



国際関係学部校友会常任幹事

日吉 智

国際関係学部校友会の皆様方

におかれましては、格別のご愛

顧を賜り厚く御礼申し上げます。令和六年（二〇二四）は、元

旦から能登半島の巨大地震に始まり、翌二日には日本航空機への衝突事故、夏の猛暑、九月には大雨による三県（山形県、新潟県、石川県）での甚大な被害が発生しました。人的被害二十一名（死者七名、行方不明者二名、負傷者十二名）、住宅被害六棟（床下浸水六棟）が報告されました。石川県は地震と大雨等による災害の多い一年となりました。これは石川県だけの問題ではありません。もちろん地形的な要因も考えられますが、他人事で済まされる問題ではないと思っています。未だに地震の爪痕が残り、追い打ちをかけるように大雨被害に見舞われ、復興までにはまだかなりの時間がかかりそうです。いつ何処で災害が発生するかわかりません。

令和七年に入ると一月に埼玉県八潮市で下水道管の老朽化による道路陥没事故が発生し、一

名の運転手が陥没事故に巻き込まれ尊い命が失われてしまいました。また、四月には京都市下京区で五月には大阪市城東区において上水道管の破裂による漏水事故が発生し、大量の水が噴き出したことは記憶に新しいところです。一刻も早い復旧・復興が望まれます。

七月に入ると気温が全国各地でどんどん上昇し、記録的な暑さとなりました。この今年の記録的な暑さは太平洋高気圧や偏西風の蛇行の影響等によりもたらされています。そして、夏の平均気温が統計開始以来、過去最高を更新するなど、かつて経験したことがないような異常気象が続いています。猛暑日が全国各地で頻繁に記録され、猛暑日数も過去最高を記録しています。最高気温が四十度以上になる地域も続出するなど猛烈な暑さになっています。

また、全国各地で熱中症等により救急搬送される方も急増し

ており、命の危険にさらされています。熱中症等には万全を期して頂き、ご自身の体調管理と暑さ対策を徹底して行ってもらいたいと思っています。この暑さは今後も続くものと予想され、専門家の間では日本による春・夏・秋冬(四季)がなくなり夏・冬(二季)になると予想している専門家もいます。日本の四季折々がなくなり生態系への影響や農作物等への被害も深刻化しています。この異常気象の原因の一つに二酸化炭素排出による地球温暖化が考えられます。経済活動を優先して経済が発展することはとても喜ばしいことですが、一方で自然に対する認識の甘さから今日の状況を招いていることも忘れてはなりません。自然環境の変化に伴って海面水温が上昇し一時間あたり百㎞を超えるような猛烈な雨が全国各地で計測されています。

さらに、線状降水帯が全国各地で頻繁に発生し河川の氾濫や

浸水被害、土砂災害などの災害が頻発化しています。命を守る行動をとる緊急安全確保の情報が気象庁より頻発に発令されるなど、日常の生活を脅かす事態となっています。今もなお各地で甚大な被害が発生しています。今更ながら自然災害の怖さを思い知らされ、災害に対する危機管理(リスクマネジメント)を改めて再確認したところです。

皆さま方におかれましては、どのように感じていますでしょうか。他人事として捉えるのではなく、いつ自分の身に降りかかってもしないように日頃の備えと危機意識を持つことが大切です。時代や自然環境の変化とともに、日常生活における危機管理等のあり方を見直す時期に来ているのではないのでしょうか。

(案)を拝聴しながら現状を把握している次第です。

そんな中、毎年楽しみにしているのが箱根駅伝です。ここ十数年間本大会に出場したときは復路・箱根芦ノ湖で応援しています。現在は地域の役員をしており、年末には地元神社の清掃に始まり、大晦日は神社で初詣客へのお神酒や甘酒等の振る舞いを担当していますが、箱根駅伝出場の年は張り切ってドンドン作業は捗りますが、出場しない年は何故か気合いが入ってていかなない感じがです。

「日本大学時代の思い出」



国際関係学部校友会幹事

甲斐忠則

校友会の皆様、こんにちは。

日本大学二部商経科を卒業しました甲斐忠則と申します。昭和五十一年四月～昭和五十三年三月の期間在籍しました。

現在ではあまり学校での行事に参加することはありませんが、総会前に開催される幹事会へは毎回出席しております。前年度の活動報告や新年度の活動計画

現在はそのような状況ですので、在籍した二年間の話題を二つ程度お話したいと思います。二部というのは所謂「勤労学生」であり、当時は学年一クラスで四十数人が通っていました。普段全日制の学生との交流はなく全校で行われる「運動会」では「この際だから二部というか夜間部をアピールしよう!」ということので大きな竹にヤカンを数多く吊る

して、まるで秋田の「竿燈祭り」のような応援物を作ったものでした。各競技においても二部の学生は頑張ってくれましたが圧巻だったのは「教員リレー」です。

二部チームはオリンピックに出場した経験のある先生に急遽「助っ人」に入ってもらい、順位を上げたのですが、アンカーの主任先生がバトンを落として順位を下げてしまいました。そのレース展開に落胆するやら大笑いするやら楽しいものでした。

また、大学祭でも「他では出来ない、二部特有のものをやろう！」ということと考えました。二部の学生は勤務している事もあり、事業者などの業界に精通しているところがあります。その利点を活用して「ホットドック」の販売を行いました。途中で販売価格を下げた事もあり大盛況でした。今でも日曜日の長寿番組で当時の司会者の方がゲストで来ており「〇〇さん、ホッ

トドック買ってよー」と言う笑顔で応えてくれました。三日間のホットドック販売は大人気で売り上げも上々でした。そして後日、その売り上げの一部を三島市役所へ寄付しました。その時の市長さんの笑顔がとても印象的で忘れられません。

同じく大学祭では校舎の2部屋を借りて「二部商経科展」を開催しました。二部学生による冊子「三島路」など歴代のものや、先輩方からも貴重な資料をお借りして展示しました。「二部商経科展」のパネルを作成し、色はどうするかという話になった時、会場に会場した皆さんに遠くからでも目立つようにと考えた時、二部の学生にはよくあるケースですが「年長の下級生」の方が「対比が強い黄色と紫が良いのでは」と言ってくれました。この二色は「個性が強く、相手の色に染まらず、強く対比する。」との事でした。聞けばデザイン等のお仕事をしてそう

で、アドバイスを基に実践するのは素人の学生ですが、当時の皆さんは一生懸命取り組んだものでした。

今の学生さんも楽しく学生生活をエンジョイしていると思いますが、当時の私達は「地味」ではありますが「無我夢中」で取り組んだ充実した二年間だったと思います。

「私という風景」



国際関係学部・短大(三島)校友会
山形県支部幹事
株式会社プラスワークス山形勤務

佐 東 司

この度、校友会会報への寄稿依頼をいただき、当時高校生一八歳の自分を思い出してみると、無気力で惰性的な生活を送っておりました。運よく日大に進学できたこのチャンスに、有意義な時間になりたいという思いだけは強くもって大学生活を送る考えをもっていたことは確かでした。

大学では軟式テニス部に所属しておりました。部の目標が「日本大学学部対抗戦のオール日大での優勝」でした。入部したばかりの自分が、部活の中で認めてもらうためには、「部に対して自分がどのように協力しているか」が大切であると気づいた。

先輩方の卒業後、後衛から前衛にポジションを変更したことなどもあり、二年生からオール日大団体のメンバー入りできるようになったことや、三年生の時は、Aチームで大会に出場できたことは私の大学時代の思い出です。振り返ってみると、教室には最低限、部活のテニス



コートには最大限いたことは論を俟たないことでした。大学の部活において今の伴侶とも出会うことができましたし、大学生活はとても有意義な時間になったと思います。

卒業してからも部活の仲間との交流は盛んで、コロナ過では一時的に中止となっていました。ですが、毎年部活の同期会が開催されており。今年も開催されるという連絡を楽しみに、そして仲間がいい近況報告と生存確認ができるように日々仕事に励んでおります。

現在私は、造園技能士として造園業に従事しておりますが、人との出会いや様々な経験を通じて、自分の考え方や価値観などが形成されていき、それらが人生における大きな礎となり、私という風景がゆつくりと描かれていくのではないかと思います。

結びに、国際関係学部校友会のますますのご発展と校友の皆

様のご健勝をお祈り申し上げます。

各団体代表者

「文化会」



国際総合政策学科三年

荒川 響

私が日本大学国際関係学部に入學し、J a z z & F u s i o n 研究部に所属してから三年目を迎えました。入學した当時は新型コロナウイルスの影響により、一年次にはマスク生活を余儀なくされる状況となり、友人の顔と名前を一致させるのに時間がかかったことを今でも覚えています。入部した頃は同学年の部員が多く在籍していたため、

活動に対しての楽しみが大きかったです。また、先輩方は少人数ではあったものの、大変頼りがいがあり、様々な個性を持ち合わせていたため、良い刺激を受ける毎日でした。現在は同学年の部員が多くいるものの、練習に参加できない人が多く困っていますが、先輩方も同じ立場であったことを振り返ると、先輩方の統率力に尊敬せざるを得ません。

例年 J a z z & F u s i o n 研究部では、ホテル演奏や定期演奏会、B l u e N o t e T o k y o 遠征を行ってきましたが、新型コロナウイルスの影響により近年は実施されませんでした。しかし、昨年度から吹奏楽部と合同で行う定期演奏会、B l u e N o t e T o k y o 遠征を実施しました。定期演奏会を経験したことのある先輩方が誰一人いない中、定期演奏会を実施するのはとても大変でした。出演者の人数不足や楽器運搬、準備

から片付けまで部員全員で手分けしながら万全で準備を整えました。吹奏楽部の O B O G の先輩方が私たち後輩を引っ張ってくれたおかげで完成度の高い演奏となり、満席のお客様から、多くの拍手をいただき大成功を収めることができました。注力してくださった O B O G の先輩方には感謝の気持ちでいっぱい

です。B l u e N o t e T o k y o 遠征では、グラミー賞常連のビックバンドのセレブレーションの生の音色を聞くことができ、心を揺さぶられました。この体験が部員の良い刺激やモチベーションにつながってくれ、と感じています。この遠征での経験を今後の活動に活かしていきたいと思っています。楽器に触れる機会や演奏経験がなく、スポーツ一筋で駆け抜けてきた私にとって、入部当初はお客様の前で披露する経験は初めてであり、ハードルが高く、

極度に緊張しましたが、家族や周りの友人、先輩方からの温かい言葉をかけてもらい、勇気を振り絞ることで演奏を完成させることができました。このことから、部活動を通して出会った頼もしい仲間や温かい先輩方や毎日支えてくれている家族に感謝しています。これからも、部活動を通して多くのことを経験し、成長していきたいと思っています。また、どの部活動においても、一人一人が楽しく、充実した、自由で個性溢れる活動ができることを願っています。最後になりますが J a z z & F u s i o n 研究部としての活動が多くの部員にとってより有意義なものになるよう部長として作っていかたいなと思っています。今後とも J a z z & F u s i o n 研究部と文化会をよろしく願います。

「体育会」



国際総合政策学科三年

岡本主真

私の所属するアメリカンフットボール部は四年前まで活動停止の状態でした。部の再建に向けて集まったのは前キャプテンとマネージャーの二人だけでした。しかし、伝統を絶やさないという先輩達の強い思いと、その思いを受け継いだ私達は再建への挑戦を始めました。

再建にあたり、まず力を入れたのは新入生への勧誘活動です。経験の有無に関わらず安心して参加できるよう、基礎体力づくりや簡単なプレー体験を中心に練習を組み立てました。競技としての迫力や戦略性を伝えるだ

けでなく、仲間と支え合う魅力を伝えることを大切にし、交流イベントを地道に重ねました。その結果、現在はマネージャーを含めて八名が集まり、再び「部」として活動できる形を取り戻すことができました。

しかし、試合を行うにはまだ人数が足りません。ですが、その現実を前向きに捉え、基本から一つずつ積み重ねながら、競技の魅力を広めていくことを目標としています。まずは学内での存在感を示し、見学した学生に興味を持ってもらえる雰囲気を作っています。試合には出られなくとも、活動が続ける姿勢そのものが部の価値を高め、将来の飛躍につながると信じています。

こうした交流を通じて私達は「日本大学のアメフトブランド」をもう一度良いものにしていきたいという強い思いを共有していききました。過去の歴史を受け止め、新しい価値を積み重ねていくことこそ、現役部員に課せられた責任だと感じています。

現在の活動は小規模で、課題も山積しています。しかし、活動停止状態から仲間を集め、再びグラウンドに声を響かせられるようになったことは、大きな意味を持つ一歩です。人数が少ないからこそ一人ひとりの役割が大きく、全員で支え合いながら活動を進めています。この過程は単なる競技活動を越え、組織作りや協働の力を学ぶ機会にもなっていると信じています。

そして何より、スポーツを通じて日々を過ごすことが、大学生活そのものに彩りを与えていると実感しています。グラウンドで汗を流す時間、仲間と語り合う時間、先輩方から学ぶ時間、その一つひとつがかけがえのない経験となり、今後の人生に必ず実りをもたらすと信じています。これからも仲間と力を合わせ、挑戦を続けていきます。困難を乗り越える過程こそが、自らの誇りとなり、社会へ羽ばたかせる原動力となると確信しています。

「富桜祭」



国際総合政策学科三年

上田 健人

最後に、私たちの挑戦は決して華やかなものではないと思います。人数不足の中での練習は地味で代わり映えがなく、時には苦しいこともあります。しかし、困難を共に乗り越えようとする仲間の存在が、何よりの力になります。アメリカンフットボールを通じて培った忍耐や協調の精神は、必ずや社会に出てからも生きるものだと思っています。これからも現役部員一同、誇りと責任を胸に歩みを進めていく所存です。

末筆ながら、日頃より温かいご支援と励ましをくださる校友会の皆さまに、心より御礼を申し上げます。体育会部活動一同、皆さまからのご期待に応えるべく、地道に努力を重ねてまいります。今後とも変わらぬご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

係学部入学前より、同大学のホームページ内で富桜祭実行委員会という組織を知り、是非ともその活動に従事したいと考えておりました。しかし活動内容は多岐に渡り、私が高校時代に経験したものは内容も密度も違いました。富桜祭実行委員に入ったばかりの頃は先輩方の後を追うことしかできず、自発的に行動を起こすことができませんでした。

しかし、二年目には当時の模範局の副局長を任せていただき、局長を支え、皆で富桜祭を成功させることができました。

二年目となる現在、前委員長から推薦していただき、委員長としてハナ各規模の部員を取り仕切る役割を担っております。今まで私は小規模なグループのリーダーなどの経験はありましたが、ハナ名というこれまでに比べ大規模な組織の運営を担ったことがなかったため、当初は

不安が募るばかりでした。それにかえて、私と共に二年間苦楽を共にした仲間が一人しかいなかったためにその不安はさらに強くなっていきました。経験者が少ないため、どのように組織を運営すべきか、部員に対してどのように接していくのが良いか、就任直後はそのようなことばかり考えてしまい憂鬱な日々を過ごしていました。そんな中、苦楽を共にした仲間が副実行委員長として私を支えてくれ、その人の言葉は私の心の支えとなりました。また、後輩たちも多く残ってくれ、自主的に物事に取り組んだ結果、円滑に活動を進めることができました。新入部員が入った際には、部員同士で様々なことを話し合い、仲を深め、時にはトラブルが発生してしまうこともありましたが、互いの意見に傾聴して解決策を模索し、切磋琢磨しながら組織全体での成長を感じました。それと共に私自身も成長していく必要があり、リーダーとして相応しい人間になれるよう日々研鑽を積んでいます。

最後に、今年の富桜祭のテーマは、「Creation」舞台マは、「ここ三島」です。このテーマには、私たち一人ひとりの創造を最大限に活かし、富桜祭に関わる全ての人に新たな想造をしてほしいという思いが込められています。また、積極的に地域との連携を図り、新たな人間関係の構築を模索していきたいと考えています。今年の富桜祭に向けて、実行委員会全員が一丸となって取り組んでいきます。今後とも、富桜祭実行委員会をどうぞよろしく願います。



令和6年度 事業報告

1 国際関係学部校友会会長賞等授与

令和6年度日本大学国際関係学部在学生から、次の者が国際関係学部長から推薦された。

- ・校友会会長賞（副賞：奨励金）は、国際関係学部1名に贈られ、令和7年3月25日予定の学位記伝達式が学部卒業式となり、同年3月26日三島駅北口校舎にて授与式が挙行され、該当者に対し賞状並びに副賞として奨励金が授与された。
- ・校友会優秀賞（副賞：奨励金）は、体育会1団体・国際関係学部1名に贈られ、令和7年3月26日三島駅北口校舎にて授与式が挙行され、該当者に対し賞状並びに副賞として奨励金が授与された。

①校友会会長賞（副賞：奨励金）

（国際教養学科4年）鈴木 智恵里

②校友会優秀賞（副賞：奨励金）

国際女子硬式野球部 （国際総合政策学科4年）奥村 隼人

1 メタルクラフト

800個を製作し令和6年4月大学院及び国際関係学部並びに短期大学部（三島）各学科の新入生全員に対して入学祝として渡した。

1 会報発行

会報55号を令和6年11月15日付け20頁 20,000部を発行した。

1 各事業に対する補助

①国際同窓会・桜栄会及び山形県支部に対する補助

②大学の体育会・文化会に対する補助

1 常任幹事会

令和6年6月8日（土）16時30分から、国際関係学部本校舎 校舎15号館2階1523教室において開催した。

1 幹事会

令和6年6月8日（土）17時30分から、国際関係学部本校舎 校舎15号館2階1523教室において開催した。

1 総会並びに懇親会

令和6年7月6日（土）15時30分から、みしまプラザホテルにおいて開催した。

1 国際校友会公式WEBサイト更新

令和6年4月から公式WEBサイト（ホームページ）に年間10回に渡り校友会行事を写真集として更新した。

1 富桜祭物産展参加

令和6年10月26日（土）・27日（日）両日に開催された第74回富桜祭の10月27日に校舎15号館1階スタディエリアの一部を使用して校友会主催による地元特産物等の販売並びにバザーを開催した。また、例年単独で開催しておりましたホームカミングデーは物産展の一部コーナーで国際関係学部・短期大学部（三島）卒業生及び法・文理・経済・商学部移行生を対象とした学園訪問懇談会を「富桜祭バージョン」と称し開催した。

1 ホームカミングデー開催

令和6年8月16日（金）16時から20時まで佐藤塾（本町交差点）にて日大三島高校同窓会三島支部との共催による『三嶋大祭りバージョン』と称して開催した。

1 東京箱根間往復大学駅伝競走応援

令和7年1月2日(木)往路ゴール応援地点及び令和7年1月3日(金)復路スタート応援地点で本部所属の吹奏楽研究会及びチアリーディング部ディッパーズの学生が応援に参加した。また、令和7年1月3日(金)応援終了後三島市内の佐藤塾にてパブリックビューイングと称しテレビ観戦に合流した。

1 就職支援事業

国際関係学部4年生を対象に以前開催しておりました就職合同面接会申込企業の三島市及び駿東郡長泉町在住を中心とした企業16社からの求人情報を頂き、校内メールより直接企業情報が収集出来る事となる。

1 銀杏並木歩道清掃作業

校舎西側（県道21号線）歩道両側の清掃作業を実施した。ボランティア活動の一環として毎月第4日曜日の午前9時から約1時間、銀杏並木南側歩道橋附近から北側幸原町交差点までの両側歩道植え込み清掃を実施した。本年度は4月28日を第1回目として9回実施し、参加者は校友会会員に加え日大三島高校生徒会延84名が参加した。

1 卒業記念品

令和6年度大学院修了・国際関係学部卒業生667名、専攻科・短期大学部(三島)卒業生133名に対して卒京祝いとして令和7年3月26日開催の学位記・卒業証書伝達式当日シャチハタネームペンを渡した。

令和6年度 収支決算書 (平成6年4月1日～令和7年3月31日) (単位:円)

支出の部				収入の部			
項目	予算額	決算額	差額	項目	予算額	決算額	差額
奨学費	390,000	90,000	300,000	会費収入	11,712,000	11,661,000	51,000
校友会報発行費	1,100,000	961,400	138,600	雑収入	780,000	1,072,827	△ 292,827
各科同窓会等補助	300,000	200,000	100,000				
学生団体補助	800,000	219,000	581,000				
総会並びに懇親会費	1,000,000	1,183,664	△ 183,664				
箱根駅伝応援補助	920,000	247,335	672,665				
本部校友会会費	400,000	340,000	60,000				
入学記念品費	500,000	492,800	7,200				
卒業記念品費	2,300,000	4,361,500	△ 2,061,500				
会議会合費	300,000	240,745	59,255				
通信運搬費	2,300,000	2,551,058	△ 251,058				
ホームページ運営費	400,000	404,800	△ 4,800				
事務費	1,400,000	1,588,761	△ 188,761				
会員名簿作成管理費	100,000	0	100,000				
就職合同面接会運営費	0	0	0				
雑費	900,000	577,804	322,196				
国際関係学部校友会奨学金支援基金	250,000	250,000	0				
予備費	300,000	0	300,000				
計	13,660,000	13,708,867	△ 48,867	計	12,492,000	12,733,827	△ 241,827
基金繰入額	400,000	400,000	0	基金繰出額	0	0	0
次年度繰越金	43,244,115	43,437,075	△ 192,960	前年度繰越金	44,812,115	44,812,115	0
(繰越金)	43,244,115	43,437,075					
支出の部合計	57,304,115	57,545,942	△ 241,827	収入の部合計	57,304,115	57,545,942	△ 241,827

貸借対照表 (令和6年3月31日現在) (単位:円)

借方		貸方	
項目	金額	項目	金額
普通預金	62,532,225	基金	20,160,000
定期預金	5,560,000	前年度繰越金	19,760,000
		本年度繰入額	400,000
		本年度繰出額	0
		次年度繰越金	43,437,075
		繰越金	43,437,075
合 計	68,092,225	合 計	63,597,075

基金の内訳 (単位:円)

項目	前年度繰越額	本年度繰入額	本年度繰出額	合計
基金	19,760,000	400,000	0	20,160,000
日本大学創立150周年記念事業基金準備金	7,180,000	100,000	0	7,280,000
国際関係学部創立50周年記念事業基金準備金	7,180,000	100,000	0	7,280,000
国際関係学部校友会35周年記念事業基金準備金	5,400,000	200,000	0	5,600,000
計	19,760,000	400,000	0	20,160,000

令和6年度収支について関係帳簿並びに証拠書類を精査いたしましたが、記帳その他正確であることを認めます。

令和7年5月15日

会計監査 木村 貴美和 ㊞
会計監査 藤本 文彦 ㊞

令和7年度 事業計画

1 国際関係学部校友会会長賞等授与（副賞：奨励金もしくは奨学金）

日本大学国際関係学部及び短期大学部（三島校舎）令和8年3月卒業・4月進級の予定者を対象とする。

・校友会会長賞並びに奨励金	国際関係学部	4年卒業予定者	3名
・校友会優秀賞並びに奨励金	国際関係学部	4年卒業予定者	4名
	短期大学部（専攻科含む）	2年卒業予定者	2名
・校友会優秀賞並びに奨学金	国際関係学部	2・3年在学生	4名
	短期大学部（専攻科含む）	1年在学生	2名

1 メタルクラフト

500個を製作し令和7年4月大学院及び国際関係学部並びに短期大学部（三島校舎）各学科及び専攻科の新入生全員に対して入学祝として渡す。

1 会報発行

会報56号（令和7年10月21日付）22頁 23,000部発行予定。

1 各事業に対する補助

- ①各科同窓会及び支部に対する補助
- ②大学体育会・文化会に対する補助
- ③箱根駅伝応援に対する補助

1 常任幹事会

令和7年6月14日（土）16時30分から、国際関係学部本校舎 校舎15号館において開催する。

1 幹事会

令和7年6月14日（土）17時30分から、国際関係学部本校舎 校舎15号館において開催する。

1 総会並びに懇親会

令和7年7月5日（土）15時30分から、みしまプラザホテルにおいて開催する。

1 国際校友会公式WEBサイト更新

校友会主催の年間行事を写真集として更新する。

1 富桜祭物産展参加

令和7年10月25日（土）・26日（日）に開催される第75回富桜祭期間の校舎15号館1階スタディエリアの一部を使用して10時から16時まで校友会主催による地元特産物等の販売並びにバザーに参加する。また、国際関係学部・短期大学部（三島）卒業生及び法・文理・経済・商学部移行生を対象とした学園訪問懇談会を開催する。開催日については富桜祭実行委員会で決定する。

1 ホームカミングデー開催

令和7年8月16日（土）16時から20時まで佐藤塾（本町交差点）にて日大三島高校同窓会三島支部との共催による「三嶋大祭りバージョン」を国際関係学部・短期大学部（三島）卒業生及び日大三島高校卒業生並びに法・文理・経済・商学部移行生を対象として開催する。

1 東京箱根間往復大学駅伝競走応援

令和8年1月2日（金）往路ゴール応援地点並びに令和8年1月3日（土）復路スタート応援地点で応援する。本部所属の吹奏楽部研究会及びチアリーディング部ディッパーズの応援に参加する。

令和8年1月3日（土）応援終了後三島市内に戻り「パブリックビューイング」と称しテレビ観戦に参加する。

1 就職支援事業

国際関係学部4年生を対象に三島市及び駿東郡長泉町に在住する企業から求人情報を頂き、校内メールによる求人情報を希望する学生に提供する事業である。また、人事担当者との面談について学生個人の時間にあった就職活動が出来る事業。

1 銀杏並木歩道清掃作業

ボランティア活動の一環として、本校舎西側（県道21号線）歩道両側の清掃作業を実施する。

実施日は毎月第4日曜日午前9時から約1時間とする。

1 卒業記念品

令和7年度国際関係学部及び短期大学部卒業生予定者895名に対して卒業祝いとし令和8年3月26日開催の学位記・卒業証書伝達式当日記念品として渡す。

令和7年度 収 支 予 算 書

（令和7年4月1日～令和8年3月31日） （単位:円）

支 出 の 部				収 入 の 部			
項 目	本年度予算額	前年度予算額	差 額	項 目	本年度予算額	前年度予算額	差 額
奨 学 費	390,000	390,000	0	会 費 収 入	11,272,000	11,712,000	△440,000
校友会報発行費	1,100,000	1,100,000	0	雑 収 入	780,000	780,000	0
各科支部等補助	300,000	300,000	0				
学生団体補助	800,000	800,000	0				
総会並びに懇親費	1,000,000	1,000,000	0				
箱根駅伝応援等補助	920,000	920,000	0				
本部校友会会費	400,000	400,000	0				
入学記念品費	500,000	500,000	0				
卒業記念品費	3,139,500	2,300,000	839,500				
会議会合費	300,000	300,000	0				
通信運搬費	2,300,000	2,300,000	0				
ホームページ運営費	400,000	400,000	0				
事務費	1,400,000	1,400,000	0				
会員名簿作成管理費	100,000	100,000	0				
就職合同面接会運営費	0	0	0				
雑 費	900,000	900,000	0				
国際関係学部校友会奨学金支援基金	250,000	250,000	0				
予 備 費	300,000	300,000	0				
計	14,499,500	13,660,000	839,500	計	12,052,000	12,492,000	△440,000
基金繰入額	400,000	400,000	0	基金繰出額	0	0	0
次年度繰越金	40,589,575	43,244,115	△2,654,540	前年度繰越金	43,437,075	44,812,115	△1,375,040
（繰越金）	40,589,575	43,244,115					
支出の部合計	55,489,075	57,304,115	△1,815,040	収入の部合計	55,489,075	57,304,115	△1,815,040

※各予算を流用することができるものとする。

基 金 の 内 訳

（単位:円）

項 目	前年度繰越額	本年度繰入額	本年度繰出額	基金振替額	合 計
基 金	20,160,000	400,000	0	0	20,560,000
日本大学創立150周年記念事業基金準備金	7,280,000	100,000	0	0	7,380,000
国際関係学部創立50周年記念事業基金準備金	7,280,000	100,000	0	0	7,380,000
国際関係学部校友会発足35周年事業基金準備金	5,600,000	200,000	0	0	5,800,000
計	20,160,000	400,000	0	0	20,560,000

国際関係学部校友会

年間会議報告

●常任幹事会

令和七年六月十四日(土)十六時三〇分から、国際関係学部本校舎十五号館五階一五五六教室において開催された。

横山雅人会長挨拶の後、会長進行により議事に移り、幹事会提案事項の内容について各担当者から詳細な内容説明があり検討審議された。

◎幹事会

令和七年六月十四日(土)十七時三十分から、常任幹事会に引き続いて幹事会が開催された。江本博勝副会長の司会で進行され、黙禱に引き続き横山雅人会長挨拶の後、議長団・書記の選出に移った。議長には日吉智常任幹事、副議長には久保田博明常任幹事、書記には押見恵美子常任幹事、がそれぞれ選出され、自己紹介の後次の議事が検討審議された。

- 一 令和六年度事業報告
- 一 令和六年度決算報告
- 一 監査報告
- 一 令和七年度事業計画(案)
- 一 令和七年度収支予算(案)
- 一 令和七年度新幹事に関する件
- 一 富桜祭物産展実行委員・ホームカミングデー実行委員に関する件
- 一 令和七年度国際関係学部校友会総会・懇親会に関する件
- 一 功労者表彰に関する件
- 一 校友会正会員加入のお願い

一 国際関係学部校友会関係物故者について

一 校友会会報(第五十六号)原稿依頼者について

一 その他 令和六年度銀杏並木清掃参加者について

田中由雄幹事長から、令和六年度事業報告引き続き塩谷典子会計担当から令和六年度決算報告が報告され藤本文彦会計監査から監査報告があり、それぞれ承認された。続いて令和七年度事業計画(案)については田中由雄幹事長から令和七年度収支予算(案)については塩谷典子会計担当から提案説明がなされ、審議の結果二案とも承認された。令和七年度新幹事等に関する件については、国際関係学部三名、女子硬式野球部代表、短期大学部ビジネス教養学科二名、食物栄養学科三名の推薦をしたい旨が事務局から提案され承認された。富桜祭物産展実行委員並びにホームカミングデー実行委員に関する件については昨年度に引き続きお願いしたい旨の報告がなされた。次に令和七年度国際関係学部校友会総会・懇親会については、日時 令和七年七月五日土曜日十五時三十分から会場は、みしまプラザホテルにおいて開催される旨田中由雄幹事長から報告がなされた。功労者表彰に関する件について田中由雄幹事長から石川貞夫顧問に授与したい旨の提案があり了承され、総会時に授与式を開催したい。次に校友会正会員加入促進について会報発送時に役員宛に同封した

い。国際関係学部校友会関係物故者については令和六年七月から令和七年六月末日までに事務局に逝去の連絡が有った方十四名を一覧にしました。会報(第五十六号)原稿依頼者は横山会長、渡邊学部長、篠原事務局長、日吉智常任幹事、甲斐忠則幹事、佐藤司山形県支部・文化会荒川響委員、長、体育会岡本主真委員長、富桜会実行委員会上田健人委員長の三名、桜栄会・食物栄養学科の方々をお願いした。その他として令和六年度銀杏並木清掃参加者名簿を添付したのでご覧いただきたい。

●総会

令和七年七月五日(土)十五時三十分からみしまプラザホテルにおいて開催された。江本博勝副会長の司会で昨年の総会後から本年六月末日までに逝去された会員に対し黙禱をささげ、続いて山田浩子副会長の開会が伝えられ進行された。横山雅人会長の挨拶の後、永年校友会に対し功労があつた石川貞夫顧問に対し感謝状並びに記念品が代理として弓場重明氏に授与された。続いて議事に移り、議長団書記選出となった。議長には日吉智常任幹事、副議長には勝又義博常任幹事、書記には諏訪部昭子常任幹事が選出され、自己紹介の後、次の議事が報告並びに審議された。

- 一 令和六年度事業報告
- 一 令和六年度決算報告
- 一 監査報告
- 一 令和七年度事業計画(案)

一 令和七年度収支予算(案)

一 令和七年度新幹事に関する件

一 日本大学国際関係学部校友会会則の一部変更に関する件(案) 報告

一 富桜祭物産展・ホームカミングデー実行委員について

一 国際関係学部校友会関係物故者について

一 令和六年度銀杏並木清掃参加者名簿について

一 各科同窓会活動報告

一 その他 田中由雄幹事長から令和六年度事業報告がなされ、続いて令和六年度決算報告が塩谷典子会計担当から報告、藤本文彦会計監査から監査報告があり、それぞれ承認された。令和七年度事業計画(案)に関する件田中由雄幹事長から、令和七年度収支予算(案)に関する件は塩谷典子会計担当から内容説明がなされた。審議の結果、原案どおり承認され、二案について案の削除となった。続いて令和七年度新幹事に関する件とし国際関係学部同窓会から勝又優希、鈴木智恵里、眞野芽生、奥村隼人以下4名、短期大学部商経科同窓会から泉かりん、伏見奈帆以下二名、桜栄会から佐野智咲、大沼勇太、清水春希以下三名を幹事として推薦したい旨が事務局から提案があり承認された。

田中由雄幹事長から日本大学国際関係学部校友会会則の一部変更に関する件(案)について会則第九章表彰第二十二条二上記

の役職以外で特に功労があつた者も幹事会の議を経て、これを賞することができ。の追加で審議の結果承認された。次に富桜祭物産展・ホームカミングデー実行委員については、昨年度に引き続き委員をお願いしたい。国際関係学部校友会関係物故者については田中由雄幹事長から令和六年七月から令和七年六月末日までに事務局宛に連絡が届いた石川貞夫氏以下十八名の会員の方がご逝去なされた旨の報告がされた。各科同窓会活動報告については報告事項なし。弓場重明副会長の閉会のことばで総会は終了した。

総会終了後懇親会が開催された。田中由雄幹事長の司会で進行され、鈴木允常任幹事の指揮により校歌斉唱に始まり横山雅人国際関係学部校友会会長挨拶の後、来賓挨拶としてソコロワ山下聖美日本大学副学長並びに渡邊武一郎国際関係学部長及び北村周之日本大学校友会副会長挨拶と会長代読の祝辞があつた。来賓紹介の後、篠原健司国際関係学部事務局長による乾杯のご発声で懇談に移った。本年の余興として抽選会が模様され思わぬ笑みが生まれたと思われ、宮下公雄副会長により一本絞めで閉会となった。今年度は来賓者を含め一〇二名の参加者となった。



国際関係学部校友会総会

校友の皆様方のご参加をお待ちしております。また、年度内行事については国際校友会ホームページに詳細案内致しますのでご覧ください。

◎校友会会報投稿者募集

国際関係学部校友会では国際関係学部及び短期大学部各科卒業生で「会報」に掲載していただく方を募集しております。お店・会社経営者・地元で話題、ユニークな活動を行っている方など自薦・他薦は問いません、ご存じでしたら左記事務局までご連絡ください。

☎四一八五五
静岡県三島市文教町

二一三一四一五

日本大学国際関係学部内
日本大学国際関係学部校友会事務局宛

TEL・FAX

〇五五九八〇一〇八二〇

同窓会だより

◎国際関係学部同窓会総会

日時 七月五日(土)

場所 十五時から

◎短期大学部桜栄会
日時 七月五日(土)

場所 十五時から

◎短期大学部桜栄会
日時 七月五日(土)

場所 十五時から

◎短期大学部桜栄会
日時 七月五日(土)

場所 十五時から

◎短期大学部桜栄会
日時 七月五日(土)

場所 十五時から

◎短期大学部桜栄会
日時 七月五日(土)

場所 十五時から

校友会事務局からのお知らせ

◎銀杏並木清掃作業
毎月第四日曜日午前九時から
約一時間程度
本校舎西側道路(県道二十一
号線歩道)

◎富桜祭 物産展・バザー
日時 十月二十五日(土)

場所 校舎十五号館一階

◎ホームカミングデー
日時 八月十六日(土)

場所 十六時～二十時

◎東京箱根間往復大学駅伝競走応援
日時 一月二日(金)

場所 三島市本町

◎東京箱根間往復大学駅伝競走応援
日時 一月二日(金)

場所 三島市本町

◎東京箱根間往復大学駅伝競走応援
日時 一月二日(金)

場所 三島市本町

◎東京箱根間往復大学駅伝競走応援
日時 一月二日(金)

◎山形県支部総会
日時 十一月二十二日(土)

場所 十七時三十分から

◎山形県支部総会
日時 十一月二十二日(土)

場所 十七時三十分から

◎山形県支部総会
日時 十一月二十二日(土)

場所 十七時三十分から

●役員名簿

会長	横山雅人 (国際)			
副会長	宮下公雄 (国際)	濱田義之 (学部)	山田浩子 (桜文)	江本博勝 (商経)
	平澤佳代子 (桜栄)	弓場重明 (工)		
幹事長	田中由雄 (商経)			
常任幹事	関野浩二 (国際) (庶務担当)	塩谷典子 (国際) (会計担当)	平岩美知 (桜文)	久保田博明 (商経)
	遠藤晶子 (桜栄)	早川清文 (工)	西野和衛子 (商経)	神戸絹代 (桜栄)
	多田清吾代 (商経)	鈴木允 (学部)	田代稔 (商経)	諏訪部昭子 (桜文)
	斎藤千鶴子 (桜文)	露木ひろみ (工)	押見恵美子 (桜栄)	松原裕二 (国際)
	勝亦幾代 (桜文)	西田昭子 (桜栄)	高野誠 (国際)	勝又義博 (国際)
	久保田裕子 (桜栄)	藤澤博隆 (商経)	山瀬匠 (商経)	渡邊孝哉 (桜文)
	勝又勇旭 (国際)	深澤ほの香 (国際)	日吉智 (商経)	藤本文彦 (工) (会計監査)
	木村貴美和 (国際) (会計監査)			
顧問	小早川隆義 (商経)	野中美香 (桜栄)		

公式WEBサイト



URL <http://www.nu-ir-koyukai.jp/>



校友会HP
QRコード

「桜栄会の皆様へ」



桜栄会会長

平澤 佳代子

桜栄会会員の皆様におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。私が、平成から令和への移り変わりに、二期の野中さまから桜栄会会長を引き継ぎ早七年となりました。先の総会において、無事に来期から三十期の久保田様へバトンが渡せることとなりました。久保田様は専攻科も卒業されておられこれからの託せる素晴らしい人材の方に巡り会えたと思っております。この七年間の中では、感染症による移動制限など初めての経験で、集うことが許されず、この時代何を行ったら良いのか見えず、結果桜栄会活動が停滞することとなり、皆様にはご迷惑をおかけしました。また、食物栄養科の募集停止もあり、

同窓の皆様には残念なお知らせとなったこと、申し訳ない思いでいっぱいいます。

そのような中、事務局としてともに活動して下さった皆様にはこの紙面をお借りして、心から感謝申し上げます。

さて、以前お話ししたことがある『ウェルビーイング』ですが、教育界にもキーワードとして登場してきました。「持続的な」幸せを意味する概念ですが、持続可能な社会の創り手をみんなで育むためにとの願いがあるようです。昔から、日本栄養士会では、一生涯学び続けることが社会貢献を果たせる栄養士、管理栄養士であると教えられてきました。当時、様々な研修会に参加し、得た知識を栄養相談に来ていただいた方々に最新情報として伝えたり、考え合ったりすることが生きがいになっていました。学んだことを議題にして話し合える環境の素晴らしさを実感できた時代でした。学びをいかに幸せなことに結びつけてもらえるのか、学べる環境づくりがなぜ大切なのかなど、教育界にどのように浸透していくのか期待したいところです。

柔軟な考えや対応が求められる時代になっていますが、ポジティブな人間関係を築くのも『ウェルビーイング』を構成する要素の一つです。何事にも動じない、我が儘や独りよがりではない、自分のやりがい、生きがいなど持続可能な幸せを日々の中で見つけていけるとこれからの人生を有意義に過ごしていけるのかなと思います。

季節性の感染症などがこのころは不定期に流行しています。

日本は、四季が豊かな国だから、いろいろな物事が四季折々でしたが、ウイルスの世界にも、温暖化の影響が現れて通年の感染症となりつつあります。そのような中なので、柔軟で強い心と体をつくるために、抵抗力、免疫力を上げる日々を過ごして欲しいです。その糧にしていたきたいのが「和顔愛語」（わげんあいご）「先意承問」（せんいじょうもん）です。ふわふわ言葉を紡ぎ出すための心持ちにしてほしいと願う言葉です。まずは、自分から笑顔と優しい思いやりのある言葉で周りの人に接する姿勢や、普段から笑顔を絶やさず、心からの言葉を発す

る努力をして、感染症に負けない充実した日々を送っていただけたらと思います。これからの季節、心がまるくなるふわふわ言葉で、心を温かくし病気に負けないようにお過ごしください。

皆様のご健康を心から祈念し、ご挨拶と致します。

「食物栄養学科の過去・現在・未来」



日本大学短期大学部
食物栄養学科教授 学科長
高橋 敦彦

校友会、桜栄会会員の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

昨年この紙面で短期大学部食物栄養学科の学生募集の停止（令和七年度以降）並びに専攻科食物栄養専攻の学生募集の停止（令和九年度以降）についてお知らせ申し上げました。

<https://www.nihon-u.ac.jp/information/20240419-277.html>

食物栄養学科の沿革については、卒業生の皆様の方が詳しくご存じの事と思いますが、ここで振り返らせていただきたいと思ひます。

日本大学短期大学部の歴史は一九五〇年に設置された「日本大学短期大学」に始まります（一九五二年に現在の日本大学短期大学部に名称変更）。一九四九年に文部省に申請されていた食物栄養学科の前身である生活科学科（入学定員五十名）は不認可とされましたが、一九五九年に三島キャンパスに「栄養科」が産声をあげます。一九六二年に栄養科は「家政科」に改組（入学定員一二〇名）され、一九六七年には、家政科は「家政専攻」と「食物栄養専攻」に分かれ、定員は二三〇名となります。一九九〇年には、家政科家政専攻は生活文化学科生活文化専攻となり、一九九七年から生活文化学科は男女共学となりました。そして、一九九九年には、専攻科食物栄養専攻が設置されるに至ります。二〇〇〇年に生活文化学科生活文化専攻が廃止となり、二〇〇一年には生活文化学科食物栄養専攻は食物栄養学科となり、現在に至りま

す。こうした六十年を超える食物栄養学科の歴史の中で、一万名を超える栄養士・管理栄養士を輩出し、現在も数多くの卒業生が静岡県はもとより、全国で活躍されておられます事はとても誇らしく、喜ばしいことです。

さて、本年度からの食物栄養学科の募集停止に伴い、現在、学科の食物栄養学科生は二年生のみ、専攻科食物栄養専攻は一、二年生という構成で専任教員八名により運営しております。校舎は九号館の老朽化に伴い、九号館の使用を中止することとなりました。これに伴い、学生の講義、演習、実験、実習、学生生活には影響を与えないように、実験・実習室を十一号館に新造・移設し、後学期から稼働させます。従前、給食管理実習は九、十一号館で行われておりましたが、今年度は桜アリーナの学生食堂の厨房を専用に利用して調理作業を行い、検食は学生食堂で行いました。講義科目は、十一、十三、十五号館で行っておりますが、引き続きすべての在学生が充実した学生生活を送ることができまよう、学生の教育、進路支援などにつきまし



ては、教職員一同、これまで同様に万全を尽くしてまいります。

食物栄養学科では各種資格取得についてサポートしてまいりましたが、製菓衛生師の通信教育講座、スクーリングは今年度で終了となります。フードスペシャリスト、フードアナリスト、NR・サプリメントアドバイザーについては、学科が所属する限り在校生に対する資格取得についてサポートを行います。卒業生、社会人に対する科目等履修生は、学科が存続いたしましす限り対応させていただきますと思います。

卒業生の皆様に対する証明書発行などの各種事務手続きは日本大学国際関係学部事務局に引き継がれることになっており、皆様にご不自由をおかけしませんように鋭意対応させていただきます。

今後とも皆様方の忌憚のないご意見をお聴かせください。皆様のご健康を祈念申し上げます。

「南太平洋の小さな島国・ツバル共和国を旅して」



食物栄養学科教授

上田 龍太郎

卒業生の皆さま、いかがお過ごしでしょうか。私は令和六年度日本大学海外派遣研究員(短期A)に選ばれ、環太平洋地域における魚介類利用状況の調査を目的として、今年一月末～三月

半ばにかけて太平洋の国々七カ国を旅する機会に恵まれました。研究成果につきましては今後論文等で発表していく予定ですが、今回は一番思い出に残っているツバル共和国について簡単に紹介させていただきます。

ツバル共和国は人口約一万人、東京都品川区とほぼ同じ面積しかない世界で四番目に小さな独立国です。首都のあるフナフティ環礁は南北に細長い島で、北端と南端を結ぶ一本道は十二kmしかありません。南太平洋にひっそり浮かぶツバル共和国は

昔から私の中でいつか訪れてみたいと思っていた憧れの国の一つで、飛行機の窓からフナフティ環礁の姿が見えて来たときは涙が出そうになりました。ツバルは地球温暖化に伴う海面上昇により沈みゆく国と言われているますが、現地の人たちに悲壮感を感じられませんでした。ただ「この島は地面を2mも掘るとすぐに海水が湧き出てきてしまうので、墓地に穴は掘れない」と教えてくれました。

フナフティ空港に到着すると大勢の人たちが集まっており、フィジーから週に三便しかない飛行機の離着陸は島民にとってお祭りのようなものだと理解しました。現地に到着してまず驚いたのはバイクの多さで、ノーヘルメット、二人乗りで乗っている人が多く、免許は不要でした。たまに車も走っていますが、バイクも含めて時速三十km/h位でゆっくり走っていました。ちなみに星空撮影のため深夜一時に外に出たら、まさかの老若男女がバイクで走り回っていてビックリ！こんな時間に何しているのだろう？と思いました。が、島民にとってわずか十二kmしかない一本道を行き来するこ

とは数少ない娯楽の一つのようでした。

またツバル共和国の飛行場の滑走路は、飛行機が去った後は子供達の遊び場になっていることにも驚きました。夕方になると大人達も滑走路にサッカーゴールを設置して試合をしたり、さらに飛行機が到着する五分前まで滑走路を車やバイクが横断していました。世界中で滑走路が遊び場になる国際空港なんて他に見当たらないのではないのでしょうか？

フナフティの街中を散策して感じたことは、みんな笑顔でフレンドリー、そして警察官も「この国は本当に治安が良く、強盗やバイクの盗難もない」と話していました。強い言葉は野犬が多いため定期的に駆除されている様子で、狂犬病こそ発生していないものの、宿の人から棒を持って出歩いた方がよいと言われました。海に囲まれたツバル共和国の食事は魚が中心で味付けも美味しく、食べ物の好き嫌いが多く私でも食事に困ることはありませんでした。ただし基本的には水は雨水に頼っているためシャワーも温水は出ず、昔ゼミ生と訪れた沖縄県・波照

間島の民宿を思い出しました。

ツバル共和国は世界の最貧困国の一つと言われており、実は島中ガラクタやゴミが散乱していて、街の中心部を外れると屋根と柱だけで壁のない家が多数見られました。でも人々はいつも笑顔&フレンドリーで、物質的に恵まれた生活をしている日本人にとって幸せとは何か？を考えさせられる島でもありました。今回ツバル共和国は三泊四日の滞在でしたが、実際に行ってみるととても興味深い島国で、何より人々の笑顔とフレンドリーさが素晴らしかったので、できれば生きている間にもう一度再訪したいと思わせる国でした。



「振り返ってみると…」



食物栄養学科 教授
太田 尚子

おおよそ三十年前、当時食物栄養学科の学科長は岩瀬先生、そのサポートを室伏先生がなさっていたと思うのですが、ある時私が勤務していた鳴門教育大学（徳島県）の実験室にお電話がありました。お話の内容は、「近々、日大短大に食物栄養の専攻科を立ち上げたいと思うので、協力して欲しいのですが。」とのことでした。

私は当時単身赴任中で色々大変なこともありましたが、「家族と同居させていただけるなら有難いです。」と申しましたが、その後ヒヤリングなどを経て、温かく迎えて下さりました。その結果、一九九六年四月より本学にお世話になることとなりました。

私の専門は「食品化学」でしたが、短大では広く浅く教授する雰囲気が高く、その4月より

「栄養学」と「公衆栄養学」「応用栄養実習」を担当させていただくことになりました。たまたま、数年前より「鳴門病院の看護学校」で「栄養学」も担当していた為、なんとか学生さんに教授できましたが、当時は一学年一六〇人の学生さん（今の二倍ほど）が在籍されており、なかなか大変でした。

赴任後一年ほどして専攻科が発足し、学位授与機構の審査もあり、私は「食品学」を担当することになりました。当時は十号館の地下に、学生の実験準備室兼、教員の小さな実験室があり、そこで、時折、三橋先生と話す機会を持ちました。今でも彼女が一人で、電気泳動しておられた姿が思い浮かびます。

さて、私の研究室では最初は短大二年生の卒論生、その後専攻科生を受け入れるようになりました。当時は私も三十五歳くらいで、元気があり、夜二十時ごろまでは大学におりました。頑張り屋さんの学生さんもちらほらおり一緒に在来線で横浜まで帰宅したものです。

一九九八年、私は短期でフランスとイギリスに実験に行きました。その時、動的粘性測定

という技術を教えていただきました。帰国後、自身でも基礎研究を発売に行いたく思い、信頼できる研究仲間の先生にお電話し相談しました。その折、先生から発せられた「教育はお経ではないから、研究できない教員は教育もできない。」という言葉が今も鮮明に残っています。

三橋先生も「実験系の研究者は、自身で研究費が稼げるようになり、初めて一人前」と仰いました。そんなこんなで、私の「教育と研究の両立」に向けた努力の毎日がスタートしました。科研費でも基盤Cでは大きな装置は買うことができず、ずいぶん苦労しました。しかしながら、民間の研究プロジェクトにアプ

ライしたり、生物資源との共同研究などに参加させていただき、なんとか研究環境を整えることができるようになりました。研究所事務課のスタッフの方々にも随分ご理解いただき、自立した研究をスタートできたと感謝しております。

短大生の卒論は選択科目、専攻科生の特論は卒業必須科目ですが、短大時代から卒論を選択してくれた人たちは本当に実験の好きな人たちでした。学会に

も一緒に出向き自身の研究成果を発表してくれました。楽しい且つ大変、緊張感のある経験であったと思います。

あつという間に三十年という時間が過ぎ、今度の三月で私は定年退職することとなります。これからも細々とも研究を続けていく覚悟です。

最後に有期とはなりましたが、最後まで素晴らしい食物栄養学科でありますことを祈念します。

「食栄で育まれた十九年間」



食物栄養学科 准教授
篠原 啓子

私が日本大学短期大学部食物

栄養学科の専任教員となったのは、今から十三年前、平成二十四年の四月から、食栄とのご縁はもうちょっと前の平成十八年からです。このご縁をお話ししますと・・・私は、静岡女子大（現静岡県立大学）卒業後、静

岡済生会総合病院で二十一年間勤務してきました。私が就職した当時の病院食は「まずい・冷たい・（夕食が）早い」が代名詞です。これを改善したいと奔走し、電子カルテ、厨房施設の改修と給食業務がようやく軌道にのってこれからNSTというところで燃え尽き、退職しました。家で再充電中のところに、

恩師の勧めもあり、恩師が学部長をされていた浜松大学健康プロデュース学部の大学院に入学しました。自分でも「よくやってきたな」と今は思いますが、日大の他、静岡医療センターの看護学校、英和短大の非常勤、糖尿病クリニックでの栄養指導と仕事を掛け持ちしながら、二年間、高速飛ばして片道二時間大学へ通いました。

のスポーツツトリズム協議会との協働で「すその頂飯」の合宿メニューを作り、これを冬バードジョン・男性メニューに小山先生がブラッシュアップしてください、市町駅伝に参加する裾野市の子供たちへの支援につなげと今やっています。このような地域活動との関わりは学会で発表させてもらいました。

「紆余曲折の栄養士人生」
食物栄養学科(五十八期)
益田 三鶴



自分が言うのも恥ずかしいですが、私は日本一経歴が変わっている管理栄養士ではないかと思っています。日本大学付属三島高校を卒業後、横浜の専門学校に進学、卒業後就職したのは海上保安庁でした。海上保安官を目指した理由は、高校一年生の頃に海上保安官をモデルにしたTVドラマを見て「カッコいい！自分もなりたい！」と単純な憧れを持ったからです。実際に夢は叶えられましたが、理想と現実のギャップに悩み長く続けることは出来ませんでした。その後、ホテルのレストランや飲食店で働くも長くは続けられず気づけば二十五歳を超えていました。このまますぐに次の仕事を探してもまた続けられないかもしれない、一度自分のやりたいことや興味のあることを考えてみようと思い、頭に浮かんだのが昔から食べることと料理、つまり「食」が好きということでした。そして、ただ好きではなく「食」にまつわる正しい知識を持ち仕事をしたいと思ったことが栄養士を志したきっかけです。栄養士を目指し短大に入学したのは二十七歳の時で、高校を卒業したばかりの若者の中で二十七歳の自分はかなり異色だったと思います。短大での勉強は大変なことも多かったですが、先生方や周りのサポートもあり無事に卒業し栄養士としてのスタートを切りました。

卒業後最初に就職したのは給食委託会社です。病院に配属され調理作業をメインで行っていました。その後、特別養護老人ホームに転職し厨房業務はもちろん、利用者様の栄養ケア計画書の作成など栄養ケアマネジメントも経験しました。短大に通っている頃から実務経験を積んでいざれば管理栄養士として活躍したいと思っていたので、実務経験後管理栄養士国家試験を受験し、一回目の挑戦で無事合格することが出来ました。管理栄養士国家試験に一度で合格することも大きな目標としていたので、合格発表で自分の受験

養士会から日大の教員募集に応じてくれないか」と電話がかかってきました。会長からの求めを断ることはできませんし、私は「声がかかることに対しては断らない」選択に迷う時は心がドキドキする方を選ぶ」を信条にしていましたから受けることにしました。結果ありきの募集でしたが、その時に吉田隆子先生から「外部の仕事も抱えて忙しいので、栄養教育実習を手伝ってくれないか」と声がかかりました。当時、食栄の定員は一二〇名、三クラスの授業、実習でした。当初は栄養教育実習、二年後には給食経営管理実習も行うこととなりました。非常勤として学生を教える立場になったからには、自分も勉強する必要があります。学生時代の

修士取得と時を同じくして、吉田隆子先生が退官を迎えることで神戸先生から常勤のお誘いがあり、正式に大学教員になりました。非常勤として授業は持っていました、大学の教員という仕事は私にとって未知の世界です。大学教員は教育と同時に研究もおこなわなければなりません、修士論文も、指導教員から「はじめはどうなるか」と思っていました」と卒業の時に言われた学生だったので、右も左もわかりません。これまでやってきた臨床は得意分野ですが、栄養教育を担当するにあたり食育にも関わる必要があります。そこで学生と一緒に考えながら三島市と協働でお箸の持ち方についての食育活動や調査を数年継続してやったり、裾野市

常勤になって三年から四年の間は授業の準備で毎日ヘロヘロ。「なぜ、こんな大変なことを引き受けたのだろうか」と後悔することもよくありましたが、授業やゼミ活動など食栄での生活は、私に教えること、学ぶことの楽しさを育ててくれました。二〇二五年度で残念ながら食栄の短期大学部は閉学となりますが、「食と健康」との関わりはヒトが生きていくうえで外すことができない問題ですから、皆さんが食栄で学んだことは栄養士として仕事をしているかどうかに関わらず日々の糧となっていくと思います。その一助にもし私がなりましたら望外の喜びです。皆様のご多幸を祈りつつ、私も体が動く限り栄養士として頑張ります。

自分でするのも恥ずかしいですが、私は日本一経歴が変わっている管理栄養士ではないかと思っています。日本大学付属三島高校を卒業後、横浜の専門学校に進学、卒業後就職したのは海上保安庁でした。海上保安官を目指した理由は、高校一年生の頃に海上保安官をモデルにしたTVドラマを見て「カッコいい！自分もなりたい！」と単純な憧れを持ったからです。実際に夢は叶えられましたが、理想と現実のギャップに悩み長く続けることは出来ませんでした。その後、ホテルのレストランや飲食店で働くも長くは続けられず気づけば二十五歳を超えていました。このまますぐに次の仕事を探してもまた続けられないかもしれない、一度自分のやりたいことや興味のあることを考えてみようと思い、頭に浮かんだのが昔から食べることと料理、つまり「食」が好きということでした。そして、ただ好きではなく「食」にまつわる正しい知識を持ち仕事をしたいと思ったことが栄養士を志したきっかけです。栄養士を目指し短大に入学したのは二十七歳の時で、高校を卒業したばかりの若者の中で二十七歳の自分はかなり異色だったと思います。短大での勉強は大変なことも多かったですが、先生方や周りのサポートもあり無事に卒業し栄養士としてのスタートを切りました。

卒業後最初に就職したのは給食委託会社です。病院に配属され調理作業をメインで行っていました。その後、特別養護老人ホームに転職し厨房業務はもちろん、利用者様の栄養ケア計画書の作成など栄養ケアマネジメントも経験しました。短大に通っている頃から実務経験を積んでいざれば管理栄養士として活躍したいと思っていたので、実務経験後管理栄養士国家試験を受験し、一回目の挑戦で無事合格することが出来ました。管理栄養士国家試験に一度で合格することも大きな目標としていたので、合格発表で自分の受験

番号を見つけたときはすごく嬉しかったです。管理栄養士取得後、改めて今後の管理栄養士としての自分のキャリアについて考え、挑戦したいと思ったのが病院の管理栄養士となり栄養指導等に携わることでした。中途採用の管理栄養士の募集はあまりなく、毎日のように求人情報を見る日々の中で現在の職場とご縁があり、現在は病院の管理栄養士として日々患者様の栄養管理に携わっています。日々勉強し知識をアップデートしていかなければならず大変なこともあります。ですが、栄養指導を通して患者様の食生活や検査値が改善すると、頑張つてよかったと強いやりがいを感じます。頭に知識を入れるだけでなく、高いコミュニケーション能力も管理栄養士には必要と感じているので、コミュニケーションスキルを高めていくことも今後の目標です。

管理栄養士の活躍の幅はとて
も広く様々な活躍の場があると
感じています。私も現在は病院
で勤務していますが、このまま
病院の管理栄養士としてキャリ
アを積み、別の分野に飛び込
んでみるか考えを巡らせる日々
です。人間は生まれてから最期

「食で笑顔を届きたい」



専攻科(三十六期)
佐野智咲

私は令和七年に専攻科食物栄養専攻を修了した佐野智咲と申します。幼い頃から食をすることが大好きで、食を通して人々に笑顔や幸せを届けたいという思いを持ち続けてきました。その思いが、栄養士という職業を目指すきっかけとなり、この学校に入学しました。

入学当初は、新型コロナウイ

ルスの流行により授業がオンライン中心となり、対面での学びが制限されました。画面越しの授業は理解が難しく、友人を作る機会も少なく、孤独で窮屈な大学生活を送っていました。少しずつ状況が緩和され、対面授業も再開されましたが、学びや学生生活に対する物足りなさを感じていました。もっと深く栄養士としての知識や技術を身につけたいという思いが強くなり、専攻科への進学を決意しました。

専攻科では、より高度で実践的な学びが多くありました。同じ志を持つ仲間とともに学ぶ日々はとても刺激的で、互いに励まし合いながら成長できる環境に身を置けたことは、私にとって大きな財産となりました。専攻科に入ってから「プロジェクトM」という部活動に参加していました。この活動では、地域の食材を活用したスイーツの商品開発を行いました。初めての試みで、食材の選定から試作、原価計算、ポップの作成、販売まで、すべてを自分たちで行うことは非常に難しく、何度も壁にぶつかりました。地域の食材をどう生かすか、どんな味

や見た目が喜ばれるかを何度も試行錯誤し、仲間と協力しながら完成させた商品を地域のお祭りでも販売しました。多くの方々が「美味しい」と笑顔で言ってくださる姿を見て、大きな感動とやりがいを感じました。食を通して人を笑顔にするという自分の原点を再確認できた、非常に貴重な経験でした。

また、専攻科では保健センターでの実習も経験しました。乳児健診や子どもへの栄養相談などを通して、子どもたちの成長を食の面から支えることの大切さを学びました。私は小さい頃から子どもが好きで、子どもたちと関わる仕事がしたいという思いが強くなりました。実習を通して、子どもたちの食事や栄養に関する知識を保護者に伝えることの重要性や、子ども一人ひとりの成長に寄り添う姿勢の大切さを実感しました。卒業後は、保育園で栄養士として勤務しながら、子どもたちと楽しく関わり、成長を支える食事づくりに取り組んでいます。日々の業務としては、給食の調理、献立の作成、食材の発注など多岐にわたり、忙しい毎日

自分の力不足を痛感することもあります。それ以上に子どもたちと一緒に給食を食べる時間が、私にとってかけがえのない時間です。

子どもたちが「おいしかった!」と笑顔で伝えてくれる瞬間や、食事を楽しく食べる姿を見ると、栄養士としてのやりがいや喜びを強く感じます。食事は単なる栄養補給ではなく、心を育てる大切な時間でもあると実感しています。子どもたちの健やかな成長を支えるために、安心・安全で美味しい給食を提供することを常に心がけています。

これからも、食を通して人々の健康と幸せを支える栄養士として、学びを深めながら成長していきたいと思っています。子どもたちの未来を支える仕事に携わることで、食の力を最大限に活かし、多くの人に笑顔を届けられるよう努力していきたいです。



桜栄会の皆様へ

桜栄会の皆様には、日頃から食物栄養学科および専攻科食物栄養専攻の教育活動にご理解とご協力を賜り、心から感謝申し上げます。

さて、全国的に十八歳人口の減少が急速に進むなか、特に静岡県下の少子化は全国平均より深刻な状況もあり、また近年の四年制大学志向などにより、食物栄養学科は過去数年間にわたり入学定員の充足に至らない厳しい状況が続いております。このような状況の下、短期大学部食物栄養学科は、令和六年度四月の入学生受け入れを以って学生募集を停止することといたしました。加えて、食物栄養学科の学生が卒業後に進学する専攻科食物栄養専攻についても、来年度の令和八年の入学生受け入れを最後に、学生募集を停止することを併せて決定いたしました。また科目等履修生については、令和十年度が最終受け入れとなります。

令和七年度の短大二年生進級学生および専攻科入学生を含め、引き続きすべての在学生が充実した学生生活を送れるよう、学生の教育、進路支援などにつきましましては、これまで同様に教職員一同、万全を尽くしてまいります。

桜栄会の皆様におかれましては、これまで本学短期大学部（三島校舎）の教育活動に御理解・御支援いただくとともに格段のご高配を賜りましたこと、衷心より感謝申し上げます。この度の食物栄養学科令和七年度以降及び専攻科食物栄養専攻令和九年度以降の学生の募集停止にいたしました事情を御賢察いただき、何卒御理解承りますようお願い申し上げます。

管理栄養士国家試験対策講座からのお知らせ

第四十回管理栄養士国家試験は、令和八年三月一日に行われる予定となります。試験に向けての勉強方法はそれぞれかと思いますが、卒業後も仕事と並行しながら目標に向かって皆さんが頑張っていることを嬉しく思います。

本学の対策講座は、コロナ禍以降Zoomを利用し、参加申し込み状況を見ながら八月から週一回六十分程度、配布した資料を使って頻出事項の解説を行っています。

平成二十三年度に立ち上げられたこちらの管理栄養士国家試験対策講座に関しては、引き続き開講いたします。今年度は、動画でのオンデマンド配信を予定しております。また講座に併せて模試を大学単位で申し込み、苦手科目のアドバイスを行います。

合格のためには、管理栄養士の資格を取って将来的にどう活用したいのかを明確にして具体的に決意表明すること・過去問題集一冊を少なくとも三回は解くことが大切です。問題集は様々な出版社から販売されておりますので、自分が使いやすい本を選ぶとよいです。受講を希望される方は、模試注文の都合上、五月の連休明けくらいを目安に食物栄養学科研究室へお問い合わせください。試験までの追い込みを頑張ろうと思っています。ぜひご参加ください。今年度の管理栄養士国家試験を受ける予定の卒業生に関しましても心より応援しております。季節の変わり目に体調を崩さないよう、試験対策に取り組んでください。

学科で卒業生も取得できる資格

《製菓衛生師（国家試験受験資格）》

食物栄養学科・専攻科食物栄養専攻では、茨城県にある「つくば栄養医療調理製菓専門学校」との連携で、製菓衛生師国家試験受験資格を取得できる通信教育課程を開講しております。食物栄養学科の募集停止に併せて、本校への入学募集を停止することとなりました。

製菓衛生師の資格を取得した卒業生各位、皆様の成功を陰ながら応援しております。

《介護職員初任者研修》

介護職員初任者研修は、旧「ホームヘルパー二級」に該当します。訪問介護員とも呼ばれ、高齢者や心身障害者などの身体介護や家事サービスを提供し、自宅での自立を支援します。厚生労働省が指定する講座を修了することで修得でき、高齢化社会を迎える今のご時世に必要性が高い資格になります。

本講座はニチイ学館と連携した本学科単独の通信講座で、食物栄養学科・専攻科食物栄養専攻を対象にカリキュラムを編成し、希望者が集まり次第開講予定となります。

「フードアナリスト」四級・三級

フードアナリストは、世界各国の食文化や食空間の演出法、テーブルマナーや食育など、「食」に関するあらゆる知識・教養を幅広く学び、食の事ならば何を聞かれても開設できる、何を依頼されても執筆できる「食情報のスペシャリスト」を育成するための資格です。幅広い

知識を身に付けたフードアナリストは、様々な分野で活動し、その活躍が多くのメディアで注目されています。本学にて一日の受講認定試験を含むで四級の資格が取得可能です。今年度は、二月に開講予定になります。また、四級の資格を取得した者は、三級受験資格があり、在学生および卒業生の中で一定数の希望者が集まれば本学にて二日間の受講で取得可能となります。

現在食栄では受付を終了しましたため、個々に受験の申請をお願いいたしております。

食物栄養学科・専攻科食物栄養専攻専任教員&助手紹介

《専任教員》

学科長 高橋 敦彦（病理学・疾病学）
教授 太田 尚子（食品学）
教授 上田 龍太郎（食品衛生学）
准教授 石川 元康（情報処理演習・公衆衛生学）

（情報処理演習・公衆衛生学）

准教授 篠原 啓子（栄養教育論）
准教授 葛城 裕美（調理学）
准教授 難波 亜紀（栄養学）
准教授 小山 ゆう（給食経営管理論）

《助手》

助手 青野 天海（専攻科・二十二期）
助手 長谷川和輝（専攻科・十八期）
助手 鈴木 麻友（専攻科・十七期）
助手 川久 有紀（専攻科・十二期）
助手 片山なつみ（専攻科・四期）

お問い合わせは、食物栄養学科研究室
TEL…〇五五―九八〇―〇八四〇
FAX…〇五五―九八〇―〇八四六
E-mail:takahashitshiko@nion-u.ac.jp

日本大学国際関係学部校友会会則

昭和41年11月3日制定	平成元年11月3日改正
昭和42年4月1日施行	平成3年11月3日改正
昭和52年11月3日改正	平成11年11月3日改正
昭和55年11月3日改正	平成13年5月31日改正
昭和58年7月30日施行	平成17年10月31日改正
昭和62年11月3日施行	平成22年8月21日改正
	平成23年7月23日改正
	令和7年7月5日改正

第1章 総 則

(名 称)

第1条 本会は日本大学国際関係学部校友会と称する。

(事務局)

第2条 本会は事務局を静岡県三島市文教町2丁目31番145号に置く。

第2章 目的及び事業

(目 的)

第3条 本会は会員相互の親睦と融和をはかり母校の発展に寄与すると共に母校建学の理念を社会に拡充することを目的とする。

(事 業)

第4条 本会は前条目的達成のために次の事業を行う。

- 1 会報発行・会員名簿の作成
- 2 会員相互の親睦と融和をはかるための諸事業
- 3 母校の発展興隆に関する諸事業への協力参加
- 4 その他目的達成のために必要な諸事業

第3章 会 員

(会員構成)

第5条 本会は日本大学三島予科・三島教養部・文理学部三島・短期大学部（三島校舎）・専攻科食物栄養専攻・国際関係学部・大学院国際関係研究科の出身者および在籍した者による正会員と幹事会において本会に関係が深く功労があると認められた特別会員・名誉会員並びに準会員である国際関係学部・大学院国際関係研究科・短期大学部（三島校舎）の在学生をもって構成する。

- 2 特別会員・名誉会員並びに準会員は議決権は有しないものとする。

(会 費)

第6条 会員は規程の定めるところにより、会費を納入しなければならない。

- 2 会費及び徴収方法は別に定める。
- 3 特別会員・名誉会員は会費を徴収しないものとする。

第4章 役 員

(役員構成)

第7条 本会に次の役員を置く。

- 会 長 1名
- 副 会 長 若干名
- 幹 事 長 1名
- 常任幹事 若干名
- 幹 事 若干名
- 会計監査 2名

(顧問・参与)

第8条 本会は顧問・参与を置くことができる。

- 2 顧問・参与は幹事会の議を経て会長が委嘱する。

(役員の選出)

第9条 会長は会長・副会長会議で推薦され、総会にて承認を得るものとする。

- 2 副会長は国際関係学部校友会を構成する各同窓会会長或は在学した者の代表者とし会長が推薦し、常任幹事会に報告するものとする。
- 3 幹事長は常任幹事から会長が推薦し、常任幹事会に報告するものとする。
- 4 常任幹事は各科同窓会代表幹事とし、常任幹事から庶務担当・会計担当を幹事長が指名し、会長・副会長会議に報告するものとする。
- 5 幹事は国際関係学部校友会表彰者或は各科同窓会会長から推薦し、幹事会に報告するものとする。

(任 期)

第10条 各役員の任期は3年とし、再任は妨げない。ただし満80歳をもって定年とする。なお、期間は当該年度内とする。

- 2 欠員が生じたときは、必要に応じて補選し、その任期は前任者の残存期間とする。
- 3 任期満了した場合においても、後任者が就任するまでの間その職務を行う。

(役員の職務)

第11条 会長は本会を代表し会務を総括する。

- 2 副会長は会長を補佐し、会長事故あるときはその職務を代行する。
- 3 幹事長は事務を統括し、本会運営に必要な一切の事務事項を遂行する。
- 4 常任幹事は幹事の互選により選出し、常任幹事会を構成、本会業務の遂行にあたる。
- 5 幹事は幹事会を構成し、本会運営の諸事項の議決にあたる。
- 6 顧問・参与は本会の重要事項につき、会長の諮問に応ずるものとする。
なお、顧問・参与には役員に関する規定を準用する。

第5章 会 議

(会議及び議決方法)

第12条 本会の会議は、総会・会長、副会長会議・常任幹事会・幹事会の4種とする。

2 会議は会長が招集し、議長団はその都度選出する。

3 やむを得ない場合は、常任幹事会及び幹事会をもって総会に代ることができる。

(会議の構成及び開催)

第13条 本会は目的達成のため下記の機関を置く。

2 総会は本会運営上の諸事項についての報告を受けこれを承認する。

総会は年1回開催するものとし会長がこれを招集する。

3 常任幹事会は常任幹事以上の役員を以て構成し本会の執行機関として本会の実質的運営にあたる。常任幹事会は必要に応じて随時会長がこれを招集する。常任幹事3分の1以上の要求があった場合はこれを招集しなければならない。

4 幹事会は総会の代行機関として第14条の事項を付議し、これを議決する。

幹事会は年1回以上開催するものとし会長がこれを招集する。幹事3分の1以上の要求があった場合は臨時に招集しなければならない。

5 事務局は幹事長指示のもと会員相互の連絡及び各会議の議事の収録並びに運営に必要な一切の事務を行う。

(総会の審議)

第14条 総会は次の事項を審議し議決する。

2 会則及び重要規定の制定、改廃に関する事項。

3 事業計画に関する事項。

4 予算・決算に関する事項。

5 会長の選任に関する事項。

6 その他第4条に基づいて必要と認められた事項。

第6章 支 部

(支部の設置)

第15条 本会は円滑な発展と交流の促進のために支部を設けることができる。

2 支部の設置条件及び方法は別に定める。

第7章 会 計

(会計年度)

第16条 本会の会計年度は4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

(経費)

第17条 本会の経費は、会費並びに寄付金その他の収入を以てこれを充てる。

(会計監査)

第18条 会計監査は本会会計及び財務について監査し、その結果を総会にて報告する。

第8章 会 則

(会則変更)

第19条 本会の会則の変更は総会の議を経てこれを決する。

(会則の遵守)

第20条 国際関係学部校友会は日本大学校友会会則及び支部規程を遵守しなければならない。

(施行細則)

第21条 この会則に必要な細則は会長・副会長会議及び常任幹事会の議決を経て会長がこれを施行する。

第9章 表 彰

(表彰)

第22条 会長、副会長、幹事長の職にあり功労があった者が退任する際、または退任した者が物故した際には幹事会の議を経て、これを賞することができる。

2 上記の役職以外で特に功労があった者も幹事会の議を経て、これを賞することができる。

3 卒業予定者及び在学生に対する会長賞等の表彰規定は別に定める。

第10章 除 名

(会員除名)

第23条 会員が次の事項に該当した行為があったときは幹事会の議を経て除名することができる。

2 国際関係学部の名誉を傷つけ、また校友としての品位を害する言動があったとき。

3 校友会の秩序を乱したとき。

4 故意または重大な過失により校友会に損害を与えたとき。

付 則 本会則は令和7年7月31日より施行する。

日本大学校友会組織図

日本大学校友会(校友会本部事務局)

都道府県支部(65 支部)

北海道ブロック(札幌・旭川・稚内・小樽・十勝・留萌・苫小牧・網走・釧路)
 東北ブロック(青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島)
 関東ブロック(茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉・神奈川・川崎・山梨)
 東京ブロック(東京都第一・東京都第二・東京都第三・東京都第四・東京都第五・
 東京都第六・東京都第七)
 東海ブロック(岐阜・静岡・愛知・三重)
 北信越ブロック(新潟・富山・石川・福井・長野・長野県北信)
 近畿ブロック(滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山)
 中国ブロック(鳥取・島根・岡山・広島・山口)
 四国ブロック(徳島・香川・愛媛・高知)
 九州ブロック(福岡・北九州・佐賀・長崎・佐世保・熊本・大分・宮崎・鹿児島・沖縄)

学部別部会(17部会)

法・文理・経済・商・芸術・国際関係・危機管理・スポーツ科・理工・生産工・工・医・歯・松戸歯・生物資源科・薬・通信

職域別部会(5部会)

全国桜師会・桜門会計人会・日本大学法曹会・全国桜門スポーツ部会・日本大学桜門社長会

桜 門 会 (69団体)

海外特別支部(10支部)

韓国・ブラジル・ロサンゼルス・台湾・サンフランシスコ・スペイン・ニューヨーク・インドネシア・ミャンマー・バンクーバー

日本大学国際関係学部校友会組織図

国際関係学部校友会
(旧三島同窓会)

三島豫科
三島教養部
文理学部(三島)

短期大学部
桜文会(国文・英文)
商経科同窓会(1・2部・ビジネス教養)
桜栄会(栄養・家政・食栄・生活・専攻科)
工科同窓会(建築・機械)

国際関係学部同窓会